



農村指導

ヒヨコの育て方

養鶏は本省に於ては、重要な副業として、到るところの農家で盛に行はれてゐる。然し成長の盛なヒヨコ(雛)の飼育に當つて大切な營養、温度、環境衛生などの問題についてまだ、改良すべき點が多いと思ふ。

一、ヒヨコには充分な營養を與へること 總ての動物は若いうち成長が激しい爲に、特別多くの營養分を必要とするが、ヒヨコも同じで、體温を保つ爲にも、發育を良くする爲にも、種々の營養分を必要とする。ヒヨコの必要とする營養分は炭水化合物、脂肪、蛋白質、少量の礦物質及びビタミン等である。炭水化合物、脂肪分は、家庭で燃料が必要な如く、ヒヨコの體を温める役目をし、蛋白質、礦物質、ビタミン等はヒヨコの發育を助ける。これ等の營養分の中でも炭水化合物と脂肪分は穀物の中に充分に含まれてゐるので、穀物を生産してゐる農家の鶏は不足する事が無い。また多くの農家の鶏が放飼にされてゐる關係上、青草を食う機會が多く、日光にも當つてゐるので、礦物質、ビタミン等の營養分は充分に

農村と流行

衣、食、住には流行がある。しかし農民に流行があつてはならない。又流行を追つてはならない。一時カラムリが流行つた。外國から持ち歸つて獎勵した人は偉い博士であるため其れを信用して皆が高い金を出して飼つたが、結果は今日になつて運物の害蟲になつてしまつた。若し本當にカラムリが食用として美味であるならば早く害蟲でもいづら繁殖力が旺盛でも取り盡されてしまふが食べて餘り感じのよいものでないらしい。又歐洲の農家が一時チリツツの氣狂ひになつたことがあつた。日本でも兎を流行させたことがあつた。結局はなにもならなかつた。たゞ馬鹿を見たのは一般の農家である。近頃臺灣の農村にもいろいろの異物が流行り出した。香水茅だの、吳郭魚だの、政府で獎勵するものあれば民間の人が金儲けをあつて込んで宣傳して居るものもある。しかしながら新しき物に手をつけるときは政府なり農家の指導機關なりがしつかりと其の將來を豫想して農民に迷惑をかけるな様にしたい。今度の吳郭魚はたし

補給されてゐる。たゞ農村に於て困窮するは蛋白質飼料が足りない事である。本省に於ては運物性蛋白質を豊富に含んだ豆科作物の産出が少く、動物性蛋白質に至つては値段が高いため農民自身でも食用にできないので、家畜の餌にするには勿論考へられない。では、この様に蛋白質の餌を得る事が困難だからその補給を止めたいといふのではないかと一般の人は考へるかも知れないが、それは結果に於ては損である。蛋白質をヒヨコに與へれば成長を早く病氣に對する抵抗力を強化し、一時高い金を拂つても結果として利益になる。但し蛋白質は過量に與へる必要は無く、一日分の餌の總量の約二分の一ないし四分の一を與へればよい。蛋白質飼料には大豆餅(粕)、落花生餅やその他の油粕があるが、大豆餅が鶏には最も適してゐる。動物性蛋白質はヒヨコを放飼にしている居れば、道端などから昆蟲を拾つて食ふから少量は補給される。もしヒヨコの餌として、魚粉や肉粉を加へる事ができれば更に發育に良い。また礦物質の補給として、骨粉(餌の百分の一)貝ガラ(例へばうんと農村に流行したい。溝まであふれてもこれはカラムリ用として価値がある。しかし香水茅は如何?これが段々流行つて、また生産収入が外の作物より好い場合良田も知れぬおぼして香水茅を運きたらどうなるであらう。今はともよ、生長した葉を加工して油をとらなくとも結晶苗を賣つた文で莫大な収入になる。しかしいつまで続くか?これが一但眼目になつたと思つた時、田畑を元にかへせるか?指導するが々に世界に於て指導して貰ひたい。世界には臺灣より安い生産費で香水茅油を出す南米があつた。今までは臺灣より餘計にアメリカに出して居る。若し一期南米の香水茅が臺灣より多量に安價に生産された場合臺灣の香水茅はどの様な農村の人々は何物と自分の身に近づくか?農家の作物、例へば竹の茶、魚池方面の紅茶、恒春附近のサイザル等今までは物に一つ層關心を持つて品種の改良と増産に努め、流行に對して騙目をつらなことが大切である。

百分の二)食鹽(百分の〇・五)を時々與へる事も必要である。

二、温度 ヒヨコの體温は母鶏別に加温する必要があるが、突然に氣温が變つて寒くなつた時は、室内の中か或は柵の中に入れて必要がある。ヒヨコを人工的に温める場合には、第一週間は華氏九十度にして、以後一週間は華氏九十五度にして、以後一週間を經過する毎に五度低くすれば良い。この様には放飼にできる。但し農家に於ては温度を測定する方法が無い

は瞬時にして死んでしまふ。故に日頃から養鶏場は清潔に保ち、ヒヨコは他の鶏から隔離しておくのが良い。鶏の飲料水も傳染病の媒介になり易いから常に清潔な水と取りかへるべきである。

次にヒヨコの衛生の爲に、この農家でも作れる様なヒヨコ小屋を紹介しよう。(圖一)中文参照)この小屋の中には母鶏を入れたまま、ヒヨコが自由に出入りできる様にする。晩になつたら小屋を置く場所は、風通しの良



田庄歌謠 (第六回) 藍蔭鼎
亦要飼日煮飯兼曝粟 亦要洗新來新 亦要洗新來新 亦要洗新來新

から、ヒヨコが元氣に走り廻つてゐる時は氣温が良く、何匹も重り合つて踏つてゐる時は寒い日と思へば良い。ヒヨコが長い間重り合つてゐると、消化器を悪くして頂きたい。

三、環境と衛生 本省の鶏は一般に放飼で、母鶏がヒヨコを連れて餌をさがし廻るので、外界との接觸が多く、一旦鶏の病氣が流行すると全村の鶏が傳染してしまふ事がよくある。特にヒヨコは病氣が軽くても成長が停り、重い時に

秋の涼しい天氣になると、春に負けない位の鶏の産卵が多く、孵化の成績も良い。卵を上手に孵化させるには、次に述べべる如く種卵の選擇と保存法、母鶏の取扱ひ等の點について注意して頂きたい。

一、卵の選擇 孵化にする卵はなるべく大きいのが良い。また大きき卵の同じ様な卵を選んで孵化させると、ヒヨコが成長した時に大きさと、飼養上便利である。卵は殻が厚くて、光澤があり形が整つてゐると容易に破損しないので、孵化率も高くなる。汚れた卵は細菌の侵入を受け腐り易く、これを清潔な卵と一緒にするのは清潔な卵と悪くなるので別に分けて孵化した方がよい。卵が汚れてゐるのは勿論良くないが、一般の養鶏家が、泥や汚れた着いた卵を水で洗ふのをよく見かけるが、これははなほ更によくない。その理由は、卵の殻には細菌の侵入を防ぐ組織が自然に備はつてゐるので、水で洗つたり擦つたりすると細菌の侵入が容易になるからである。

自然孵化の方法

二、卵の保存 孵化用に保つておいてから孵化させるのとその結果が良くない。殊に温度の高い時は三、四日保存した丈でも孵化率が悪くなる。然し事實上、誰でも一定の数の卵を集つてから、孵化を開始させるからその間の種卵の保存法が大切である。(華氏五〇—六五度)を選んで、暫く卵の胚の發育を停止させる。卵の中の蒸發を防ぐ爲に、湿度は高い方がよい(湿度六五%—八〇%)。然し注意すべき事は、湿度が高いと卵にカビが着くから風通しを良くする事も考へなければならぬ。保存する時に、卵はどの様な位置に置いたら良いか?この點に注意して頂きたい。卵の中には空室があるもので、これを正當な位置に保つたため、卵を置く時は頭の大きい方を上に向けて置くか、若しくは水平に置くべきである(中文の圖を参照)。頭の小さい方を上に向けて置くと壓力の爲に、頭の大きい方にある空室が破損するからである。次に重要な事は、種卵は毎日時間を決めて動かさないと、受精された胚球が浮力の作用で死ぬ事がある。卵の

取扱ひには次の點に注意して頂きたい。(一)卵をぶつつけたりして激しい振動を與へない様に注意する。(二)卵を持つ時は清潔な乾いた手で扱ふ事。その理由は卵の外表面が濡るとカビが生えやすくなる。油が着いたりすると氣孔を塞ぐからである。(三)卵の兩端を持つと空室の氣孔を塞ぐ危険があるから避ける事。

三、巢箱の準備

一、五尺の面積で、高さ六—七寸位の木箱が良い。巢の下に濕土を二寸、更にその上にワラを二寸ばかり敷く。上に敷くワラは餘り長いと、鶏のカットが動く度にワラが引掛つて卵が互に衝突して破れるから、一—二寸位の短かく切斷した方がよい。巢箱は部屋の隅か或は柵の上の様な暗い所に置いて、母鶏が卵を抱いてゐる時に光線や刺戟を受けない様にす

母鶏はする數日前に、身體の各部に殺蟲劑をつけて體についた害蟲を退治する。殺蟲剤に使ふ粉はBHC又は鹽化ナトリウムが良い。孵化を開始する時には、始め卵數個を試験的に抱かせて見て、慣れて來たら全部の卵を抱かせる。卵の數は母鶏の大小と氣温によつて決める。温暖な時には一五—一八個、早春には一二—一五個が適當であらう。孵化の間、卵が踏まれてはならない。孵化の間、卵に附着した卵の液を拭き取り、敷き草をとり換へる。最後に大切な事は、孵化してゐる母鶏が他の鶏に邪魔されて途中で卵を抱くの事を止めない様に安静を保つてやる事である。卵を抱いてゐる間は、母鶏の餌として毎日一回穀粒を與へれば良い。野菜類の餌を與へると、水の様な糞を排泄して巢を汚すから避け方がよい。水と少量の穀粒は常に側に置いておく。孵化してゐる卵は、一週間か二週間毎に光に照して見て、無精卵や死精卵を發見したら取り出してしまふ。卵からヒヨコが孵るまで平均二十一日であるが、先に孵つたヒヨコは温い場所を選んで置いてやる。全部のヒヨコが孵つてから三—六時間經過したら母鶏に連れさせ

(葉文章)